

1995.8.1.発行

NO	194	あから札幌連絡先	今月通信担当
		細田 011-644-2927	T

今月の内容			
敗戦50年—私たちのこれから	…1.2	「あから」	…6
女から女へ—核のイースト「おはさん」と呼ばれたい	…3	「あから」	…7
ひとこと3つ…4.5		情報	…8

通信購読料 1940円(年間)

敗戦50年—私たちのこれから

〈公開講座〉地方自治体とアジア交流

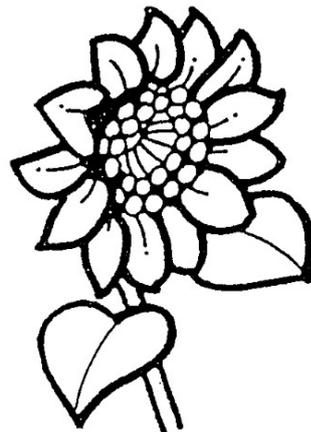
報告・高橋芳恵

私がフィリピン滞在時、お世話になった穴田久美子さんが一時帰国した。この機会を利用し、自由学校“遊”で講演会がもたれた。お話しは『小さな村の大きな国際化』から、ここそこに居る無責任日本人男まで幅広い内容だった。戦前バギオ市に、ケノンロード建設のため2300人の日本人が出稼ぎに行った。多くの犠牲者をだしながらも優秀な(?)日本人はその難工事を成し遂げ、その多くはフィリピンに残り、地元の女性と結婚し30年近くの間には幸せな日系人社会を創りあげた。ところが、太平洋戦争が始まり、その幸せな社会は根こそぎ失われてしまった。戦後、表面に出ていた日系人男性のほとんどは強制送還され、山奥に身を隠していたフィリピン人妻とその子どもたちは、それ以降30年近く日系人であることをひた隠し(日系人であることを理由に惨殺される時代であった)フィリピン社会の最下層で暮らしてきた。その間、帰国した日本の男のほとんどは、旧戸籍から新戸籍に変わったことをいいことに日本で新しい家族を作った。新戸籍に換わったときフィリピンに残した家族のことは一事も記されなかった。

今年には敗戦50年。この間、日本の経済成長はすさまじく、長く1ドル360円だった交換レートが今年、1ドル70円台になるほどまで円高が進んだ。

戦前、フィリピンに妻子を捨てた日本の男たちが今また、亡霊のように出現している、
・ ・ ・ と言ってもこれは怪談ではない。

金満日本国に出稼ぎに来たフィリピンの女性たちを、まるで人形遊びのように可愛がり、飽きたらいとも簡単に捨ててしまう日本の男たち。フィリピンで結婚式を挙げ結婚証明書



にサインしながら単身帰国し（フィリピン人の出入国はとても難しい）新たに他の女性と結婚し、それが重婚である事すら気づかない男たち。弁護士に「ここに、フィリピンの結婚証明書があります。後にアナタが届け出た新たな結婚は重婚であり罰せられます」と言われ、「そんなことをされたらボクの人生メチャメチャだ！」と真に驚く男には、既にフィリピンの女性の人生をメチャメチャにしている、という自覚は全くない。彼にとって‘結婚ごっこ’でしかなかったのだから。そして、もっと悲惨なのが、中味はどうあれ、その行為が子どもの誕生を伴うということ。カソリックの国、フィリピンでは妊娠は即出産なのである。

ジャパニーズ・フィリピーノ・チルドレン。日本の父親に拒否され、フィリピンに住む子どもたちが3万人とも5万人ともいわれている。

2つの国に生まれた子どもたちが両方の国の良い文化を吸収し両国の架け橋となるように育むのは社会の責任、とバティスセンターのボランティアスタッフとして忙しく働いている穴田久美子さんがもう1つ、力を注いでいるのが日比草の根民衆交流。

彼女の故郷・北海道の朝日町とフィリピンのバギオ市との民衆レベルでの交流が始まって今年で3年目。今年は中学校の教師で農民支援団体AKAPでボランティア活動を行っているクリスティーナ・セグナケンさんと医療短期大学の講師で日系3世のロウェナ・ベゼットさんの2人が来町し、約3ヶ月滞在する。

去年は男女4名ずつ、計8名の様々な職業の人たちが来て私も3日間同行させてもらった。人口2300名の小さな村はどこに行っても暖かく声を掛けてもらえ、僅かな英語と身ぶり手振りでコミュニケーションもバッチリ。来年の1月には村民のフィリピン訪問も予定され英語学習熱も高まり、あちこちで引っ張りだこのお2人。札幌に遊びにきてもらおうと思っても、なかなか体が空かず難しそう。昨年までピッタリ付き添っていた久美さんも、今年は3ヶ月と長い事もあり、早々にフィリピンに帰ってしまった（久美さんの夫がフィリピーナなのでどちらの国へも行ったり帰ったり、という言い方になる）。3年目にしなて、日本語の全く話せない人たちも朝日町では安心して暮らせる、と言う事なのだろう。

これは余談になるが、ここ札幌では小学校に入学した日比のダブル（ハーフではなく2つの文化を生まれながらにして持っているという意味で）が「お前なんかフィリピンに帰れ」といじめられたり、英語の発音があまりきれいなので英語の先生の気に障り、教師から無視されて結果的に友達からも遊離してしまっている、というような話しも耳に入ってくる。政令指定都市・札幌、のめざす“国際化”っていったい何なんでしょうね。



女から女へ

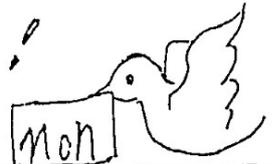
核のゴミストップ! 核実験 NON!!

谷百合子

この世の中、難しい事は考えず、目線とひたすら低くして暮らしていたら、バラ色とまでいかなくても、紫色くらいの幸せを享受できるのかも知れない。しかし、いったん疑い出したら、ささやかな日常生活なんて砂上の楼閣に過ぎないとか、とんとん見えてくる。

フランスの核実験なんて、ジョージンじゃな...まねっ!

シラクさんに葉書を出そう!!



南太平洋で9月からフランスの核実験が再開されようとしています。なんと、シラクさんは、就任第一声で、「世界の平和より、フランスを強くすることだ」と言いました。政府がよびよるなら、私たちは、シラク大統領に抗議しましょう! **同封の葉書に書いて下さい!**

尚、この運動は、仏の新聞社、ルモンドにも伝えてあります。(社は、いち早く核実験に反対を表明)。

カテコを下る前は 00790-2-4725 シラク氏にハガキを送る会
(富山市新富町2-2-14) 宮本 0764-41-1355

フランスに核実験中止を言うからには、日本とフランスの核廃棄物再処理契約をやめさせなくてはなりません。再処理のため海外へ出る。油厚塗のゴミを出さない行動も同時に起こしましょう!

イギリス・フランス・パナマ・スーダン・六ヶ所村、泊の女たち!
世界中のみんなで手をつなごう **STOP** 核のゴミ

8月2日(木)市民会館 6時~ **アイリーン・スミス**さんと
行動を起こすための集会に来て下さい。参加費500円

日本から核のゴミを出さない運動というのは、世界的に大変大きな意味があります。只今上記の国のメッセージを集約中です。出来たい賛同人とつなごう。集約先 札幌市西区福井5丁目494 谷百合子

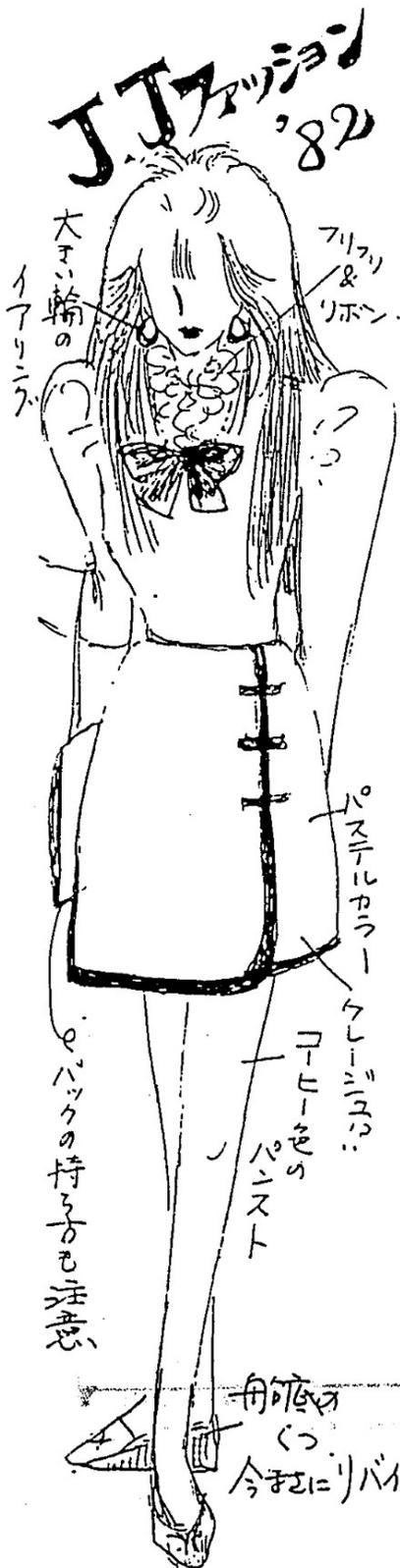


北海道・核のゴミ退治キャンペーン95では長期キャンペーンを支える資金を呼びかけます。02750-6-17779「北海道核のゴミ退治キャンペーン」

〈ひとりごと ぶつぶつ〉

YUKO. K 

あごらのメンバーTさんとのある日のデート。喫茶店での何時間かのオシャベリはとても楽しいものだった。その一つ年上のTさんは、私とは違って真面目なんだろうなあ... と思っていたら、なんと！高校時代には既にディスコに出入りしていた様子。驚いてしまった。私なんかもメンバーズカードを持って、週に何度も一人踊りに出掛けていたくちだから、なつかしい曲や当時あったディスコの話で盛り上がること... ⊕ あの頃、『釈迦曼陀羅』ってディスコがスキノにあって、フロアーが二つ、かかる曲によって「テクノフロアー」と「サーファーフロアー」に分けられていた。私はいわゆる“丘サーファー”で、船底の靴やパステルカラーのハマトラフアクションに、段のはいったサーファーヘアなんかでブイブイ言わせていたものだ。



周りの女の子達も私も“お手本”にする雑誌が何冊かあって、その一つが『JJ』。読むところなんかほとんどなくて、ひたすら“お嬢様ファッション”追究の雑誌であった。個性に合った着こなしや工才というよりは、まさにカタログといった感じ。「ファッションをリードする〇〇女子大の〇〇子さんは週に一度は△△でお食事... ⊙⊙大学の彼とのショッピングはいつも☆☆で... (有名店の名)」なんてコメントが載っている。

札幌にいた若い私にとって東京はすべてをリードするあこがれの場所であり、“東京っぽい”恰好や話し方をすることで自己満足していたのかもしれない。(東京出身の彼とつきあってきたせいもあるかな)

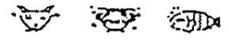
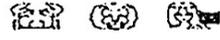
さて、ここからが本筋なのだが、最近『JJ』と同じ出版社から三〇代をターゲットにした雑誌が出た。確かに私達が読むような総合雑誌が少ないから、なかなか良いところに目をつけるなあと思っていた。当日楽しみに本屋をのぞき、ページをめくった結果... ガッカリ♡

もとモデルという美しき三〇代の横には「ご主人は△△事務所を営する一級建築士。週に一、二度ご家族そろって〇〇でお食事される。(もちろん〇〇とは名の知れた有名レストラン。間違ってもマクドナルドやびっくりドンキーではない。) ⊙⊙幼稚園に通う長女の〇ちゃんのお迎えとお菓子づくりが楽しみの毎日。」(うわぁ～『JJ』とそっくりだぁ) と思った。

何に怒ったかというこのコメント。三〇代にもなって、何でブランド化された家族や行動でしかその人の価値が語られないのかなあ。自分の足でこれだけ立って、歩いて、生きているのだと、どうして紹介されないのか？

でも、今思うと『JJ』の頃からこうだったのだ。彼氏の大学名で自分の価値が決まり、洋服や持ち物のブランド名で周囲からチェックされる。そうして過ごした二〇代女性が、今、三〇代となってこの本を読むのだろうか？ この出版社の編集部は男性ばかりだと聞いたことがある。男の目から見た“女らしさ”であふれた雑誌であった。でも当時の私はそれを承知で、男性にもてたいがため、ああいう恰好をしていたのだと思う。

では今回出版されたこの雑誌を、どんな三〇代女性が読むのだろうか。



私事になるが、数カ月前、友人ととうとうケンカをした。仕事観や人生観が違ふことを改めて感じた。⊗

留学したい、だんなさん（と、彼女は自分の夫をこう呼んでいる）と別れたい、フラワーコーディネーターになりたい、ホテルに勤めたい、でもすぐ微熱が出るし... ちんたら、グチグチ言うのをずっと聞いて相談にのりアドバイスもしてきた。二人でその中の一つ一つを検討しながらしぼりこんで、結局、フラワーコーディネーターの資格を取ることにし、その後ホテルのブライダル勤務をねらおうという話になった。で、彼女がその資格を取るための教室に通い始めて二カ月が過ぎた頃、突然電話があった。ある所に就職を決めたと言う。彼女いわく、「好きなことで食べていけるとは限らないから...」資格を取るのに三年、さらに技術を磨いて修行する期間を考えると、急に仕事にはつながらない、長く続けることで芽が出るのを待つということらしい。だてに何年も親しくしていない。英会話も続けるという彼女が、仕事や家事を含めて三つも四つもいっぺんにできるわけなどないのだ。

○その職というのが、今私のやっている仕事と同じものだったからカチンときて、「そんな中途半端な気持ちでされる仕事もかわいそうね。」と言ったものだからケンカが始まってしまった。

振りまわされた感じがした。頑固というか、依古地というか、どうせ自分の意見を通すのであれば最初から相談なんかしなければいいのに... と思ってしまう。

「私は、仕事イコール自分の生きがいでありたいから好きなことを仕事にしている。だから真正面から向き合いたい。」 私めセリフ

「それはあなただけだ！じゃあだんな様はどうなの？」 彼女めセリフ

「あの人も楽しんで仕事をしている。私の周囲の人は、好きでもない仕事をしてグチるよりも、いつも輝いていたいからこそ真剣に自分のしたい仕事を追い求めているのだ。」

「それはあなたの周りだけじゃない？世の中には好きでもない仕事に就いている人がたくさんいる。」

「確かに、今の私が急にアイドルになりたいと思ってもなれないし、やむを得ない事情で就きたくても好きな仕事に就けない人はいると思う。でも家族がいるからとか男だから女だから、もう年だから... って何かと理由をつけて、努力を怠っている人はいないだろうか？自分が踏み出せないその一歩を、他の責任にしまっていないだろうか？」

○彼女は黙ってしまった。仕事イコール生きがいという人ばかりではないことくらい私だってわっている。仕事は仕事、趣味は趣味と割り切れる人ならいい。ただ彼女の場合はその辺が自分でもまだはっきりしていないようだ。

「そんな自分への言い訳ばかりで固める生き方なんて、私は認めない！」と言うと、「あなたは自信過剰だ！！」と言われた。

確かにそうだから返す言葉がない。ただその“自信過剰”が私のエネルギーであるし、他人には見せない陰の努力のたまものでもあるのだからそう言われてもいいと思った。“みえっぱり”だから努力してますっていうのが他人に知れるのは好きじゃない。でも他人と同じことをしていたら先に出ることなんてできない。彼女みたいにいつか芽が出るかもなんて思っていたら人生終わってしまう。仕事ってそんなに甘くない。自分でつかみ取っていくエネルギーが必要だと思う。

転職の話が具体化し一か月迷ってOKした。今まで七年間の生活を捨てることには勇気がいった。でも努力と縁が運んで来てくれたこの仕事を大切に育てようと思う。それぞれの人生なんだから、もう彼女に生き方を押しつけるようなことは言うまいと決めた。自分の生き方を気にしている私にはもう『JJ』は必要ない。 ← 代わりにグチも聞かない！

去る6月25日、性教協いしかりサークル主催によるエイズ模倣授業(中3対象)を見学する機会がありました。

実は、1981年男性同性愛者の奇病として米国立防疫センターから報告された「免疫不全症候群(AIDS)」が報告されて以来、この病に注目し、死にいたっては若過ぎる年齢の人が極端にやせ、特異な症状で亡くなるという現象が目を見わたるほどです。そのうち女性や麻薬常習者にも患者が見つかり、性交渉や血液を介した医療行為や注射器からも感染するのではないかと考えられています。1983年にはエイズウイルス(HIV)が発見され、その発病に至るメカニズムがだんだん解明されて行く経過は「運命の瞬間」を見ればよく理解できます。

現在、HIVは性交渉を除いて日常生活では感染しないという知識は常識として定着しつつあると思います。しかしSEXが日常生活と一線を画するものである以上、あなたや私が感染したとしても何の不思議もありません。その行為が愛情を伴っていたかどうか、同性間か異性間か、金銭の授受があつたかどうか、回数等からはなぜ感染したか、梅毒や淋病、クラミジア、性器ヘルペス等にかかっているとHIVの感染率は1.5~4.4倍になると報告が海外で出ているように、他のSTD(性行為感染症)に罹患している人にとり、HIVへの感染が高率と言われているだけでなく、既に感染している人にとり、皮膚で守られている血液の組織等が炎症によりまき出しになり、そこからHIVその他の病原菌が入りやすくなるからです。我が家の子供が持っている本に分かりやすく書いてあつたので引用します。「とくに不特定多数の人と性交する人は、そのたびに、白血球が、それぞれの人から得るべつ種類の病原体とたまたまがわなければならぬので、抵抗力が弱まります。STDはそこに付けこんで感染するのです。」(「エイズとSTD」北沢杏子著 岩崎書店 P48)

ところで、感染原因で色分けしてはならないと思いつつ、やっぱり割り切れない気がするものがあります。「あごら」でも最近続いて取り上げている売春です。私が心配するのは、買春により感染した男(女)性の配偶者や恋人、そして売春を強要されている人々の立場です。自分の望まざる行為により命の危険にさらされるのですから、今まで容認せざるを得なかつた弱立場の女(男)性も買春に「NO」を表明したらどうでしょうか。また、「コンドームを付けなければ何をしてもいいんだ」とか、「私達はコンドームを付けるから、かえって安全な男(女)の風俗営業従事者の発言は本末転倒だと思えます。HIVは男女の社会的関係や差別を見直すべき、かけにもなるのではなんでしょうか。恐れられていた感染爆発は日本では起きないと思えますが、HIV陽性者や患者は確実に増加して行くでしょう。「もし、高3のあなたにHIV陽性を告げられたらどうしますか。」という質問を中3の生徒に投げかける今回の授業はHIVの感染他人事としてではなく、真正面から受け止める力を与え、予防と共生・支援についての正確な情報を彼(女)らにもたらす最も有効な「ワクチン」のように思われました。

「おばさん」と呼ばないで

榊



6月でしたか、24才の女性が「おばさん」と言われて腹を立てて、女子中学生4人に暴行した疑いで逮捕されたという事件は——なかなか、インパクトありました。

発言した“相手”や、その“言い方”といった状況によっても、不快かどうかは、かなり違うと思うんだけど、それでも「おばさん」と呼ばれることで、傷ついたり、不快に感じたりする女性が多くいるというのは、事実なんだよね。

小学生の頃の私にとっては、中学生は「大きいお兄ちゃん」で、大学生なんて、もう「大人」の部類だった。「おばさん」や「おじさん」というのは、「大人」に対する呼称だった。だから、機会があったら、大学生に対しても「おばさん」「おじさん」と呼んでいたかもしれない（二十才は、立派な「大人」だと思っていた時期だしね）。

でも今、この呼称に“大人に対する尊敬の気持ち”がこもっているとは思えない場面の方が多い気がする（だいたいそのまま悪口になっちゃったりする）。

年齢による差別っていうの、あるよね。老いた人への無価値観が、老いることへの恐怖、差別につながっていくの。だから男に対してもあるんだけど、女の方がもっと深刻。老いるのを待たなくても、社会は“若い”女にしか存在価値を認めていないわけだから。“若い”とか“美しい”といった（…“未婚”も入るかな？）、要するに、女に対する価値観は“男が自分のものにする価値があるかどうか”という価値基準なんだよ。

自分は“必要のない、存在する価値のない人間”と思わされるのが、どれほどおぞましいことか。「女」の存在価値、存在理由が、それしか認められていない社会なら、それを手に入れようと必死になるのは当然でしょう——はっきり言って、「愛」や「性欲」よりも、行動の動機として、重たいと思うぞ。



（だからあ、男にとっては、「インポ」や「短小」といった言葉が、女にとっての「おばさん（年増なども）」や「ブス」といった言葉に相当するんじゃないかと思うんだ。それが男の価値のシンボルだから）。

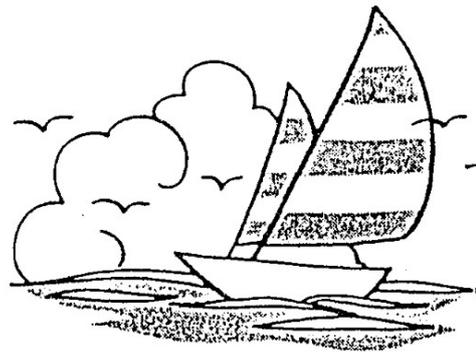
それにしても、女同士で、（若い方が）「おばさん」とののしっているのは、とても聞き苦しい。ほんの数年前の自分をさげすむのと同じことなのに、と思う…それでもそう言わずにいられないほど、対決する“武器”、自分に対して、価値を構成する他の要素（あ、「取り柄」って語の）を持たないってことなんだろうから。

でも、自分に自信を持っていれば、呼ばれても気にならないという問題でもないと思う。悪口言われたとき、その内容が事実じゃないからといって、全く平気でいられるというものでもないでしょう。

人は、言われた言葉の「事実」に傷つくんじゃなくて、「悪意」に傷つくんだよ。



INFORMATION



アイン・スミスさん講演会
 世界中の女たちと手をつなぎ
 ～ストップ!核のゴミ, 泊から
 世界へ～

8月2日 6:30PM開演

市民会館

参加費 500円



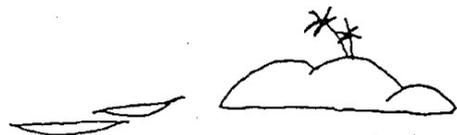
戦後50年 自由学校「遊」講座 ～私たちのこれから～

① 文学者と戦後責任 8月3日 6:30PM～
 講師: 神谷忠孝

② 平和教育を考へる 8月10日 6:30PM～
 講師: 山田順三

③ 君代は定着したか (君代問題から象徴天皇制の
 現在を考へる) 8月17日 6:30PM～
 講師: 浅見克彦

いずれも, 料金は2.7 1回1000円



澤地久枝さん講演会

—北星学園戦後50年を考へる平和のつとめ—

9月22日 6:00PM開演

北星学園講堂

入場料 1000円

問合せ: 011-561-7261



お知らせ

9月1日から遂に(化粧品)割引販売を決定(7月27日)。
 (詳しくは、浪生堂の団体のチラシ、2枚目)。

